# 委 員 会 行 政 視 察 報 告 書

大崎市議会　調査活動概要報告書

1. 視察概要

| | |
|---|---|
| 委員会名 | 情報化対策特別委員会 |
| 委 員 名 | 鹿野良太，石田政博，後藤錦信，中鉢和三郎，早坂憂，山田匡身，加川康子，小玉仁志 |
| 日　時 | 令和5年 11 月8日（水）から令和5年 11 月9日（木） |
| 視 察 先 | 1．東京都西東京市　2．東京都あきる野市 |
| 出 席 者<br>（説 明 者） | 1．西東京市議会広報委員会委員長　大林みつあき，広報委員会副委員長　田村ひろゆき，議会事務局次長　山田豊，議会事務局庶務調査係長　宮野入裕康<br>2．あきる野市議会副議長　増崎俊宏，広報公聴委員会副委員長　中村のりひと，広報広聴委員会委員　吉澤雄孝，あきる野市議会事務局次長補佐　木村亮 |

2. 視察内容

| | |
|---|---|
| 視察項目 | 1．議会編集方針分科会について，ホームページリニューアル分科会について（西東京市）<br>2．議会だよりのリニューアルについて，議会だよりの編集について（あきる野市） |
| 視察内容<br><br>【質疑応答】 | 1．議会編集方針分科会について，ホームページリニューアル分科会について（西東京市）<br>　市民によりわかりやすく議会活動を伝えるため，情報発信手段を模索するべく西東京市議会広報委員会を訪ね，田村ひろゆき副広報委員長から説明がなされた。<br><br>・広報委員会と分科会のこれまでの経緯<br>　各会派代表1名，5人から6人で構成される議会報編集委員会があり，2019 年に議会運営委員会のプロジェクトチームとして，10 名からなる市議会ホームページ検討協議会（HPT）が発足。2021 年に議会報編集，HPTを発展的解消し，各会派と無所属から委員 11 名を選出する広報委員会を設置。さらに，委員会内の検討部会として，議会報編集方針分科会，ホームページリニューアル分科会を設置。<br><br>・ホームページリニューアル分科会の活動<br>　計 12 回分科会を開催し，他市議会のホームページをプロジェクターに投影し，リアルタイムで調査研究をしながら意見を出し合い，各ページの役割決めやトップページのイメージ及びアイコンの決定など，リニューアルページの検討を行った。<br><br>・議会報編集方針分科会の活動<br>　1期生議員で構成され，他市議会報・編集方針を持ち寄り，調査研究を行い，現状の議会だよりにおける課題整理と中間報告の素案をまとめた。また，他市議会へのインタビュ |

一報告やオンラインでの会議も活用しつつ，キャッチフレーズ・スローガンの決定，掲載項目，他市議会への視察，各会派からの意見聴取を経て議会報編集方針（案）を作成した。

編集方針の論点として，「見やすく，わかりやすく」，市広報誌との差別化，ホームページと連携・誘導，ターゲットはどこに（新しい読者・これまでの読者），1面の工夫・写真，サイズをどうするか，フルカラー化の可能性，デザイン外注の可能性に主眼を置き，「議会としての活動」を伝えるという考えに基づいて掲載する事項及び規定を記した編集方針を作成し，「議会が見える，みんながつながる～“知りたい”が伝わる議会だより～」をキャッチフレーズ・スローガンに市議会全体，委員会全体の活動を伝えるという観点から公平性・正確性・客観性に留意し，掲載内容やレイアウト等を協議し作成していた。

・基本コンセプト

①「読みやすい議会だより」

読みやすさを重視して，本文の文字は大きめに，行間も広くとるために，文章を簡潔にして行政用語や専門用語は多用せず，必要に応じて平易な言葉への言い換えや注釈を加えたりするなど多くの方にとって理解しやすい文章となるように心がける。

また、写真・イラスト・図表や余白などを効果的に使用して，視覚に訴える紙面，読みたくなる紙面となるよう工夫する。

②「親しみをもてる議会だより」

市議会における議論や議決結果はもちろん，市民生活にどのように反映されたかといった後追い記事や委員会での調査活動等も掲載するなど，市議会の役割や取組がわかりやすく伝わるように心がける。また，市民の関心が高いテーマや市内で活動する各種団体等へのインタビュー，意見交換の記事なども掲載することで，市議会を身近に，親しみを感じられるよう工夫する。

③「情報が伝わる議会だより」

市議会だよりが市議会に興味を持ってもらうための入口・きっかけとなるように，市議会ホームページ等との効果的な連携を図る。また，市広報誌に掲載されている情報（予算・決算など）については，「市報〇月〇日号〇面をご覧ください」などの記載で誘導するなど，他の発行物との差別化を図りながら市議会の活動が伝わるよう工夫する。

・今後の課題

編集方針の論点のうち，1 面の工夫・写真については，新たに紙面リニューアル検討部会を設置し対応する。フルカラー化の可能性については，運営方針部会で予算などの検討を現在行っている、

【質疑応答】

問　なぜ，分科会の方式を取ったのか。

答　視点新たに市民目線を取り入れ，市民にとってよりわかりやすい情報発信をするため，委員会を紙面リニューアル検討部会，運営方針部会に分け，１期生で委員会メンバーを構成。

問　ＨＰＴの発展的解消の後続として部会への進化。

答　これまでなかった編集方針，発信方針の議論をしやすくするため。

問　ホームページリニューアルの経緯について。

答　市のホームページに準じているため２期生以上を中心にメンバーを構成。市のホームページリニューアルに先駆けて，議会内で市議会ホームページ検討協議会（ＨＰＴ）を発足（議会運営委員会のプロジェクトチーム）。ホームページの構成など具体的に要望案を作成提出。

問　見やすさの基準はどこかのホームページを参考にしたのか。

答　出雲市，流山市，豊田市，守口市など＊西東京市子ども条例担当部署の副読本が参考になっている。

問　キッズページや議会に関することの構成が素晴らしいが，議員はどのように関わっているのか。

答　執行部，議員の協働によるものである。テーマごとに議員が担当で配置され知恵を合わせて作っている。子ども条例があったため、キッズページへの意識が高かった。

問　声の市議会だよりについて（利用者数、予算規模、事業概要）。

答　ボランティアでやってもらっているため，予算は無い。図書館事業にて善意でやってもらっている。

問　ホームページリニューアルの今後の展開予定はあるか。

答　閲覧数，アクセス数を参考に満足度を図りたい。データの取得に努めていく。

問　表紙の写真について今後の課題は。

答　誰が団体を選ぶのか（自分の支持者などのバイアスがかからないため）など，規定がないので，部会で議論している。

問　編集後記を辞めた理由について。

答　読んだところで議会のことが伝わる箇所ではないため。

問　市報との差別化について。

答　議会事務局が執行部側の記事内容を想定し調整している。

問　紙面とウェブでの内容の住み分けはどうしているのか。

答　ウェブは普遍的な内容を中心としている。紙面で間に合わないスケジュールの内容も記載。議決結果等市民に早く周知すべき内容も web に掲載する。

問　一般質問欄の原稿校正はどのように行っているのか。

答　議事録の粗原稿と付き合わせて校正を行っている。

問　ＳＮＳでの発信について

答　議論に上がっているが，具体的にやろうという段階に入っていない。管理の難しさ，必要性などが議論の対象となっている。
問　カラー化の検討について。
答　印刷費の相場は低下しており，現在カラー化を推進している。
問　紙面文字のポイントについて。
答　文字数の限界等議論はあるが紙面容量の問題が大きい。
問　配布は誰がしているのか。
答　シルバー人材で全戸配布している。

Point
・議会の存在とはなんぞやを追求し議論が繰り返された。
・議会だよりのスローガン，コンセプトを策定
スローガン：議会が見える，みんながつながる，知りたいが伝わる議会だより
コンセプト：①読みやすい議会だよりを目指します。②親しみをもてる議会だよりを目指します。③情報が伝わる議会だよりを目指します。
・年齢層別に市政モニターを 100 名程度募集し，ＱＲコードでのアンケート募集を行い改革のヒントにしている。

2. 議会だよりのリニューアルについて，議会だよりの編集について（あきる野市）
①議会報リニューアルの背景
　あきる野市は，平成7年に秋川市と五日市町が合併し誕生。あきる野市議会報は，合併前の旧五日市町時代において，議会報が表彰を受けた実績を持っていたことから，合併後，旧五日市町の編集スタイルを踏襲し，発行。合併から7年間，その方法を維持していたが，平成 20 年に開催された職員向けの研修会において，30 自治体の議会報の表紙の読みたい表紙に投票するといった場面で，あきる野市の表紙が誰にも選ばれなかったことをきっかけに，リニューアルの議論を始めることとなった。それ以前も編集委員が個々にリニューアルを提案していたが，議員個々の意見から提案が反映されることなく，現状維持が続いていた。そこで，リニューアルする事を議論するにあたり，超党派で委員を選出，特別委員会を設立。特別委員会の構成委員が年齢，任期数や党を越え，フラットに議論，協力してリニューアルの議論を始めた。

②リニューアルまでのプロセス
　議論の前提として，リニューアルの必要性を検討するため，議会報について，10 自治体の議会報を庁舎入り口に掲示し，手にとって見たい冊子を市民に投票してもらうアンケートを実施。その結果，あきる野市議会報を選んだ割合は「４％」であった。（来庁者 270 人がアンケート参加）
　この４％の中の意見には「地元の議会報だから」といった意見が多く，同情票がほとんどと判断。このアンケート実施結果に基づき，リニューアルが必要であると判断，内容を

検討し，編集委員会，代表者会議への提案，承認を経てリニューアルすることが決定した。

③リニューアル検討内容

検討の前に，リニューアルの目的を設定している。「手にとってもらえる表紙づくり」「気づきを与える表現方法や読みやすさの工夫」をすること，リニューアル時期として，発行号 70 号とすることを設定し，内容の検討に入っている。

平成 23 年 10 月検討開始，同年 11 月リニューアルのモデル作成をスタート，平成 24 年６月モデルを完成し，平成 25 年２月発行の 70 号よりリニューアルを実施している。
検討内容は大きく4つ。

・検討内容１点目　興味を引く特集と表紙

読み手のターゲットをオールターゲット（全世代，市内全域）とするため，多様な市民と市議会の対談を特集記事として毎号掲載することとし，発行号毎にターゲットを変え，時間をかけてオールターゲットを読者として獲得しようと取り組んだ。

例）地域で子どもを育てる人，多胎児を育てる親，キッチンカーで販売する人など。特集記事については，委員が対象者を人選し，委員が取材対応を行っている。取材内容は録音し，事務局が文字起こししている。この取材により，議会と市民との距離を縮める波及効果があった。また，表紙写真は特集とリンクさせる工夫をしている。市民に読んでいただくためには，議会報を手にとっていただくことが最初のステップとなることから，手にとっていただけるよう議会報のタイトルを検討。議会報のタイトルを「あきる野市議会報」から，生活に直結する議会の活動を知ってもらう時間にしてほしい，という思いを込めて「ギカイの時間」に変更している。

・検討内容２点目　読みやすさ

読みやすい紙面にするため，読みやすい動線，字数制限や写真サイズを決定し余白を確保，色，フォントを決めて統一感を出すよう検討。文字数は減少するが，しっかり読んでいただけるよう読みやすい紙面構成となるよう工夫している。

なお，モデル作成時にはデザイナーが関与し紙面のテンプレートを作成し，現在使用している。

・検討内容３点目　裏表紙

子どもが掲載されると手にとっていただきやすいと考え，市内 10 校の６年生の取材記事を掲載することとした。選定方法は，事務局から各学校へ依頼，各学校で希望者を募り，抽選で対象者を選定，取材している。（コロナ禍ではウェブで取材実施）

・検討内容４点目　議案審議・一般質問

議案審議や一般質問は，行政用語が多くわかりにくいこと，また議会が知らせたいこと

と市民の知りたいことの内容には差があること，議会が読んでほしい量と，市民に読んでいただける量の違いがあることを踏まえ，行政用語を通じる言葉に置き換え，全ての議案掲載をやめて市民に身近な議案を選んで掲載する方式に変更。「議会で決めたことが，自分の生活にどのように影響するか」が伝わるように掲載内容を検討した。一般質問については，リニューアル前は答弁者を明記していたが，市の統一見解であることから「Q」「A」の表記のみに変更。さらに，写真のサイズがバラバラだったところを同じサイズに統一することで，余白を作り読みやすくするよう工夫している。

④発行スケジュール

一般質問の質問・写真は質問者が会期中に原稿提出し，討論は討論者が閉会直後に原稿提出。特集，裏表紙，一般質問答弁・校正を委員，議案は議会事務局が担当している。（N月定例会の議会報発行はN＋1月中旬に発行）

一般質問の質問が一般質問直後に質問者から提出，答弁は速記原稿を元に広報委員が作成しているため，定例会翌月中旬に発行できている。

⑤リニューアル後の効果測定と課題について

70 号発行後，市民アンケートを活用し，議会報のリニューアルに対する市民の意見をヒアリング。「リニューアル後の方が良いか」との問いに「良くなった」と回答したのは 85%とおおむね好評であることを確認している。しかし，「読んでいるかどうか」という問いでは，「存在を知らない」との回答が 22%もあり，まだ認知度は足りないという認識である。なお，市民が読んでいる記事としては，一般質問が一番多く読まれており，次に議案審議との回答。議会として市民に読んでいただきたい内容を読んでいただけている現れと認識している。なお，アンケートには，内容が物足りないとの回答もあるため，どのような内容を望んでいるのかを把握し，今後はウェブサイトなどを活用するなど，検討していく。

例）賛否を知りたい。いくつかの議案を選んで掲載している。

今後の課題としては，リニューアルコンセプトの維持とブラッシュアップが課題であり，4 年に 1 回の見直しを行うかどうか検討を行う。

⑥議会報配布方法

議会報は，市の広報誌と一緒に新聞折り込みでの配布，市役所，図書館，駅，郵便局，農協，銀行等に設置しており，全戸配布はしていない。（一部地域に戸別配布している）また，希望者には個別配布することも開始している。（参考：11 月１日に駅に議会報を 10 部設置したところ，一週間後には設置分はなくなっていた）全ての市民に手に取っていただけるよう，今後は年に1回でも全戸配布できないか検討している。

【質疑応答】

問　今後の課題について，委員の入れ替えや改選によって委員会のメンバーが変わることが想定されるが，リニューアル後からコンセプトは変わらなかったのか。

答　各会派から1名選出し，委員会を構成している。改選等で委員が変わった場合，広報広聴委員会での活動履歴のある議員が新たな委員へリニューアルに至った経緯などを説明し，前提知識を共有のうえ，編集に当たっている。4年に1度，リニューアルの必要性について議論し軽微な修正はしているがコンセプトは修正せず発行している。

問　委員会自体が方針，指針があるのが理想的であるが，改選があるとその指針を守ることは難しいのではないかと思う。コンセプトを守る難しさなどはあったのか。

答　コンセプトは変わらない。

問　市民アンケート結果等を元に，コンセプトの変更要否を判断軸としているからか。

答　それもあるが，そろそろ変える時ではないかと思っている。なお，他自治体の良い事例を参考に，定期的な見直しは行っている。

問　ギカイの時間というタイトルについて，市民からどのような反響があったのか。

答　超党派の特別委員会に届いた意見だと「フリーペーパーの感じが良かった」といった，議会報とは思わず手に取ってもらっているのではないかと思う。タイトル変更はとても良かったというご意見をいただいている。

問　表紙写真のこだわりは。

答　子どもとお母さんという組み合わせはあるが，1人の写真を載せるようにしている。

問　写真のトリミングでの留意点などはあるか。

答　望遠レンズ等で撮影した写真をそのままのサイズで使用し，表紙にしている。

問　配布について，合併当初から新聞折り込みにしていたのか。

答　合併前は不明だが，合併後からは新聞折り込みにしている。月2回発行している市の広報も新聞折込している。（市の広報と一緒に折り込みしてもらっている）一部地域についてはシルバー人材センターへ委託し配布している。

参考：あきる野市は行政区がなく，区長がいないから，全戸配布する人がいない状況。

問　世帯の何割程度配布されているのか。

答　新聞折り込みが 18,550 部なので，世帯数 37,000 に対し約半分ほど。

問　発行スケジュールについて，9月定例会が 11 月 1 日に発行というスピード感，これは一般質問の原稿提出期限が起因していると考えて良いか。

答　一般質問の最中に原稿依頼していることは大きく影響していると認識している。一般質問の後，速記原稿を基に一般質問原稿を作成している。なお，委員会の一回目は掲載内容を検討し，その後，割りつけ，校正し，事務局がチェック。二回目の委員会では，最終校正をチェックしている。

問　議会報リニューアルに関する市民アンケートはどのように行ったのか。

答　執行部の協力のもと，市が実施する市民アンケートにおいて実施している（無作為抽出で 2000 世帯）また，議会報に関してではないが，議会傍聴者にアンケートをとることもあった。

問　子どもたちへのインタビューについて，どのような応募の形にしているのか。

| | |
|---|---|
| | 答　事務局から各学校の校長へ依頼。応募が殺到している状況には現状ない。応募がゼロに近いこともあるため，その際は取材できる方を探す場合もある。なお，学校は輪番制にし，順番が決まっている。事前に事務局から学校へ依頼。抽選は議会で行っている。<br>問　市民のアンケート結果を拝見すると，裏表紙を読んでいる率が低いように見えるが，アンケートは複数回答だったのか。<br>答　複数回答だった。なお，裏表紙は 10 校を対象としており，地域全体に議会に興味関心を持っていただきたいという思いと，特集記事で幅広い年齢層の市民に興味関心を持っていただきたいというコンセプトで取り組んでいる。<br>問　インタビュー記事に載った子どもたちを議場に招待する，議会が学校にいってみるなどの取組はされていないか。<br>答　今のところ，議会報裏表紙の取材をきっかけにしての児童生徒との意見交換や交流はないが，教育委員会を通じ，議場を使っていじめに関する議論を行ったことはある。今後，高校生をターゲットに，議会報告会を行いたいと検討している。<br>問　新聞購読層が高年齢化しており，子育て中の場合は紙媒体を読む時間を確保できない場合が多いなど，議会について知ってほしいというターゲットに議会報をどのように届けていくか，検討中の取組などがあれば教えてほしい。<br>答　議会報発行当日には，市のメール配信サービスを利用し，議会報が発行された旨お知らせしている。メールには，最新号の表紙データへのリンクを貼っている。<br>問　縦書き，横書きといったレイアウト，フォントの大きさの使い方などの工夫，決まりはどうなっているのか。<br>答　縦書きと横書きのレイアウトについて特段決まりはない。臨機応変にフォントや行間を変えて，読みやすい紙面作りに取り組んでいる。 |
| 考　察<br><br>【所感・課題・提言等】 | 1．議会編集方針分科会について，ホームページリニューアル分科会について（西東京市）<br>・タブロイド判で全 12 ページ，本市議会の A4 で 20 ページと比較すると誌面の面積は 20%多い。文字のポイントも小さめなので情報量は，本市議会の 1.5 倍ほどであった。<br>・議会が見える、みんながつながる～“知りたい”が伝わる議会だより～をキャッチフレーズ・スローガンと定め、以下の 3 つの基本コンセプトを明確に打ち出した。<br>①「読みやすい議会だより」<br>②「親しみをもてる議会だより」<br>③「情報が伝わる議会だより」<br>　本市議会だよりも，頭の中ではほぼ同様のコンセプトを掲げていたと認識しているが，明示，明文化し，皆で共有することに大きな意味があると感じた。本市情報化対策特別委員会の委員任期は，実質 2 年間となっており，編集技術の深化は思った以上に難しいと感じている。任期を跨いでの継続的な改善，深化を進めるためには，西東京市議会が進めた「議会報編集方針」の明確化は，大変意味のある取組であると感じた。<br>　一見すると文字が多く「読みやすい議会だより」と言えるだろうかと疑問符がつく。本市 |

| | |
|---|---|
| | 議会だよりも同様であるが，紙面上の文字が多いと感じた。作り手として，市民に伝えたいことが多く，どうしても多くの話題を盛り込んでしまう。これは，今後の改善点と言えるだろう。しかし，以前は，質問項目を箇条書きで羅列していたものを，主な質疑を Q&A 形式で記載し，より市民目線での質疑内容を選択するなど，議会の臨場感を伝える内容に改めている点は改善点として評価できる。<br><br>＜編集方針と年間計画の策定について＞<br>現在の大崎市議会には明確な方針と計画は定めていない。期が変わるごとに0ベースでは充実した広報内容になりにくいため策定の検討余地はある。<br>＜方針の骨子について＞<br>議員のための広報誌ではなく，市民にとって見やすく理解しやすいものであるという基準のもと編集・作成している。誰が編集員となっても同一基準で作成することができる。<br>＜本委員会における課題＞<br>・西東京市に倣う，運営方針部会，紙面リニューアル部会で常に課題を顕在化するように，PDCA サイクルで見直す機会が少ない。<br>・読み手にとって必要な情報になっているかの検証ができていない。<br>・改選等メンバーが変わった際にゼロベースでの編集になりがちである。<br>＜提案＞<br>改善点を明確にして継続的な改善の流れを作るために，議会報編集方針の明確化は重要であり，細かい部分まで改善内容を可視化しておくことが大切だと感じた。今回の行政視察における学びを今後の本市議会だよりの進化につなげていけるように，議論を深め大崎市議会版の議会報編集方針を早期にまとめたいものと考える。<br><br>2．議会だよりのリニューアルについて，議会だよりの編集について（あきる野市）<br>・市職員研修において，あきる野市の議会報が自身の自治体含め誰からも選ばれなかったことを受けとめ，リニューアルに向けて議論をした取組自体が素晴らしいと感じた。漫然とした流れ作業化することなく，議会の外から客観的に議会報がどのように見られているのか，そもそも何のために誰に向けて発行しているのかに立ち戻り，どうあったら良いかを議会内で議論することは非常に重要な取組であると考える。リニューアルに当たり，リニューアルすることが目的にならないよう，リニューアルの必要性を確認，目指す姿を議会内で共有した後に，検討事項に入っているプロセスは非常に参考になる点であった。<br>・各種検討事項についても，ベースとなるコンセプトを軸に検討，リニューアルを行っている。その結果，改選等により委員の変更があった場合でも，そのコンセプトを引き継ぎ，一貫したデザイン，紙面校正をキープできる状態になっている点も，本市議会でも取り入れたい点であり，次年度に向けて今後情報化特別委員会において検討し，コンセプト・編集方針を策定したい。 |

以　上